

すぎなみ大人塾 2020 方南和泉コース

内容：大人の寺子屋～ディープなまちで遊びと学び～（第3回）

身近なまちが、ワンダーランド パート1 ～まちの課題を楽しく解決！

日時：令和2年11月14日（土曜日） 於：杉並区立方南小学校

学習支援者：西川正（ハンズオン埼玉常務理事）

ゲスト：①方南銀座商店街振興組合 新井清市理事長

②ベビーカーおろすんジャー（以下、おろすんジャーさん）

## 1. 本日の流れの確認

司会：矢口と前田です。よろしくお願ひします。

今日はゲストに、方南銀座商店街振興組合の新井清市理事長さんとベビーカーおろすんジャーさんをお招きしています。

今日の講座で、参加者の皆様に考えておいてほしいことがあります。来年1月30日に、この大人塾の合同成果発表会というのがあります。それに向けてカルタを作っているの、今日の講座で感じたことを、後で五・七・五の一句で皆さんに発表してもらいたいと考えています。

事務局：講座の前に、事務局よりご連絡があります。まず今回の講座ですけれども、公開講座ということで講演録作成の対象の事業になっております。講演の録音と、出来上がった講演録をウェブサイト上に掲載させていただく予定ですのでご了承ください、という事が一つ。もう一つが、今回の講座の様子を写真撮影させていただきまます。“顔が映るのが嫌”という方、この中にいらっしゃいますか？手を挙げにくいということでしたら、私の方にお声かけください。最後にもう一つ、コロナの感染が広がってきていますけれども、講座中、お天気が良くて暑いぐらいですけれども、マスクの着用をよろしくお願ひします。もしお忘れになった方がいらっしゃいましたら、受付に予備のマスクがありますので、お声かけください。私からは以上です。

司会：西川正さんお願ひします。

西川：こんにちは、学びの案内人西川です。7回の方南和泉コース講座のサポート役をしています。今日お集まりいただいて、最初に皆さんに一言ずつ言っていたかどうかと思っていたのですが、今回30人いらっしゃって、緊張するし、大変かなと思うので、最初にグループに分かれていただき、5、6人ずつでお話しさせていただきます。まずはお誕生日順にグルッと車座になって座ってください。

私の左手側から、1月生まれの方からグルッと輪になって座ってください。前々回の講座に参加した方は、同じ人が近くにいると思いますが、新しい方もいらっしゃるの、ランダムに混ぜるよりそれがいいかな。

こちらが1月1日でこちらが12月31日になります。夏に生まれた方はあの辺になります。『私は何月何日生まれですけど』とか言いながら動いてください。  
(参加者全員が席を移動して、円陣になる)

ありがとうございます。そしたら5人一組で区切って名前と誕生日だけ言うことにしましょう。マイクを回していくので、何月何日生まれの何々です、と自己紹介してください。座ったままでいいです。

(参加者全員が、生まれた月日と名前を伝える。)

西川：今日、11月14日生まれの方はいらっしゃらない？いらっしゃったらおめでとうございます。おろすんジャーさんがおっしゃった誕生日は、おろすんジャーの中にいるあなたの誕生日ですか？それとも？

おろすんジャー：ちょっと間違えましたね。おろすんジャーの中にいる僕は12月ですけど。

西川：おろすんジャーが誕生したのは6月なんだそうです(会場：笑い)。5人ずつ区切っていただいて、区切った5人組が1グループです。じゃあグループ毎に輪になっていただいて、よろしくお願いします。本当は、全員でやろうと思ったんですけど、人数が多いので緊張するし、いっぱいしゃべった方がおもしろいので、グループ毎にしました。話す内容はお名前、お住まい、差し支えない範囲で適当にしゃべってください、という自己紹介タイムです。

最後に“あなたにとってのヒーロー”は？今日ヒーローに来てもらっているの、そのための設問です。「あなたにとってのヒーローは？」子どもの時に“こういうのがヒーローでした”、“今の私にとってのヒーローはあの人です”、でもいいです。このテーマで一言しゃべってください。お一人、全部合わせて1分くらいかな。一周5人全員回ったら終わりです。誰から行きましょうか。一番誕生日の早い人から時計回りに。では、お願いします。ヒーローだけ忘れないようにしましょう。

## 2. グループトーク その1

大体終わりましたか？まだ終わってないところありますか？なんか楽しそうなので、せっかくなのでちょっと面白そうな、他になさそうなヒーローを言った人

を一人、どなたか選んでもらっていいですか。  
じゃあ、こちらからいきましょう。お名前とヒーローを。

参加者：ボランティアで色々お手伝いしているのですけれども、杉並の女性たちのボランティア精神、これは素晴らしいなと思いました。家庭を持ち、仕事を持ち、これだけ積極的に活動しているのを目の前で見せられるとね、僕みたいなサラリーマン卒業生は、ただただ尊敬するし、私のヒーローでございます。

参加者：こちらのグループでは、おじいちゃま、おばあちゃま、家族といったキーワードを出していた方が多いですし、今流行りの「鬼滅の刃」もありました。私ごとですけれども X JAPAN の YOSHIKI に癒されています。

西川：「私ごと」だけ言ってもらえば大丈夫ですよ。

参加者：私のヒーローが思いつかなくて、よくよく考えて、父親だなんて言ったら、すごっていう話になって。話が大きすぎたりここで公表するのもファザコンっぽくて微妙なとこなんですけど。(会場：笑い)

西川：後で詳しく教えてください。ありがとうございました。

参加者：年齢がわかるんですけど、ヒーローっていうと鉄腕アトムだな。ただし、私の言う鉄腕アトムはまだ、長靴を履いていて中に人が入っていたと思うんです。テーマソングも今ではなくて・・・っていう感じです。

参加者：このグループで話したら、誰も理解してくれる人がいなかったんですけど、川上哲治ってわかる方いますか？私の小学校の頃の本当のヒーローだったものですから。長嶋って言った方が良かったのかなって思ったんですけど、やっぱり川上ですね。よろしく願いいたします。

西川：やっこの辺でヒーローらしいのが出てきました。

新井：べたべたでつままないんですけど、僕にとってのヒーローは長嶋茂雄なんですよ(会場：拍手)。

西川：ありがとうございました。じゃあ、前振りは終了で、今日のメインに移りたいと思います。皆さんは見やすいところに移ってください。

### 3. トークセッション

西川：ここからメインディッシュにいきたいと思います。

方南町が誇る二人の超スーパーヒーローの話を書きみたいと思います。

司会：方南銀座商店街振興組合で、理事長を10年なさっている新井清市さんです。

新井：理事長の新井です。後の話にも出てくるのですが、若い人たちに集まってもらえるような街をつくりたいというのが願いです。理事長を10年くらいやっているのですが、正直言って後継者がなかなかいない環境でやっている。その間にこのようなヒーローがどんどん出てきて街が盛り上がり、ものすごく助かるし嬉しいなと思っています。もっともっとヒーローが出てきてほしいというのがいっぱいあります。

おろすんジャー：ベビーカーおろすんジャーと申します。知らない方も多いと思うのですが、地下鉄丸ノ内線方南町駅には2年前までエレベーターとエスカレーターがなかったので、ベビーカーとか重い荷物を駅東口の駅改札口まで降ろすということをしている、ベビーカーおろすんジャーでございます。

西川：皆さんご存じですか？

今日初めて会った人は？若干いますね。中途半端に有名なんですね（会場笑い）。冗談です。

おろすんジャー：方南町駅での活動は、まだまだこれからですから。

新井：そんなことはありません、超有名です。補足すると、今から4年前くらいに、駅のバリアフリー化っていう施策が出て、地下鉄とかをバリアフリーにしようっていう段階があった。23区内の駅のほとんどが対象となった。そして、まあ浅草とか方南町とか、一部しかやり残しがなかったんですけど、彼が2~3年くらい前からこういうおろすんジャー活動をしていて、いろんなマスコミが取り上げるようになった。地下鉄のバリアフリー化の話は進めていたものの、2年間くらい全然音沙汰がなかったんですけど、それから急に土地の買収したりの話が進んだっていうのが正直ところなんですね。いろんな議員の先生が「私がやりました、やりました」って言いますが、おろすんジャーがいなかったら誰にもできなかったんだと思います。ただ、今もメトロからは嫌われています（会場：笑い）。僕たちの中では突然わいたような人ですけど、今考えると本当に初志貫徹、意思の強い人ですね、こんな恰好していますけど。彼がいなかったら、方南

町駅のバリアフリー化は、もうちょっと遅れていたと思います。本当に彼こそヒーローです。

西川：おろすんジャーさんに質問です。  
やろうと思ったきっかけは？そもそも何をやっているんですか？

おろすんジャー：もともと方南町に越してきたのが15年前くらいですね。普通の大学生だったのですが、街の人と仲良くなりたいということで、何か街に役立つことができないかなと思って、始めたのが街のお掃除でした。もともとすごくシャイな性格なので、普通の格好でやっていたんですけど、なかなか街の方と交流できないまま日が経っていった。皆と交流できないかな、ということで、家の中にあったもの、この服ですね、皆さんの家にもあると思いますけど（会場：笑い）。5色の中から緑を選んでですね、着て活動したのですが、そしたら皆さんと話せるようになって、子どもが寄って来てくれたりとか、『気持ち悪い』とか言われたり、なんかのリアクションがもらえて、そこで言葉のやりとりができるようになりました。

9年くらい前、方南2丁目の八百屋でお手伝いをしていた時に、ベビーカー連れの仲良しのお母さんが、突然、今から新宿に行ってくる。『大変なのよね。中野富士見町駅まで行かないといけないから』って言う。方南町の隣の駅が中野富士見町駅ですけど、ベビーカー押しながらだと20~30分かかるところに行かないといけないって言うんです。『なぜですか』って聞いたら『方南町駅にはエレベーターがない、エスカレーターもないし、（ベビーカーを降ろすお手伝いを）頼んでも断られたこともある』と。駅で待っていてもなかなか持ってくれる人がいないから、断られる辛い思いをするなら30分かけて隣の駅まで歩いて行こうという話をしてくださったのです。僕はずっと方南町駅の乗降者ですけど、普段エレベーターとか乗ることがなかったので、困っている人がいるということを知らなかったんですね。

その話を聞いた翌日から、何かできないかな、と思って、黒板に「荷物お持ちします」って書いて街頭演説みたいなことをやったのです。駅周辺のお掃除は普段、中野・南台寄りの方を掃除していたので、方南町駅の方に行ったら誰も僕のことを知らなくて、反応してもらえなかったんです。ちょうどその頃 SNS が流行りだした頃で、そこから「変な奴がいるぞ」、「黒板に“荷物持ってもらえる”と書いてある」、「意外といい奴なんじゃないの？」みたいな感じで、徐々に持たせてもらえるようになって。理事長さんのご協力もあって、この格好で街の掃除もさせてもらっています。これが、僕が「ベビーカーおろすんジャー」を始めたきつ

かけでございます。

西川：ありがとうございます。毎日降ろしているのですか？

おろすんジャー：できちゃったんですよね、エレベーターとエスカレーターが。西口側ですけどね。東口側には今でもないのです。たまにツイッターとかで、おろすんジャーを知っていて「引っ越してきた記念に持ってよ」みたいなのは今でもありますけど、「困っているよ」という声はなくなりましたね。

新井：予約制なんです（会場：笑い）。予約、メールで。

西川：予約しないと降ろしてもらえないんですか？

おろすんジャー：今は、どちらかと言うと街の掃除の方が出くわす可能性が高いと思います。

新井：彼は普通に働いてますんで、普通に。

西川：働いていらっしゃる？

おろすんジャー：方南町で働いています。

西川：じゃあ、いつ頃行ったら立ってらっしゃるとかあるんですか？別に何曜日にいつ立っているとか、そういうわけじゃない？

おろすんジャー：今は決まってないです。やりだした頃は月～土の10時から12時くらいまで立っていたのですが。

西川：今はたまにいる時もある？

おろすんジャー：今は駅にはほとんどいないですね。

新井：ただ“あの店”に行けばいるっていう。“あの店”に。

おろすんジャー：来てください。ピザ食べに来てください。

西川：あの店に行けばいる。今はおろすんまつりとか、いろんなイベント、街お

こし系のことをやっている？

おろすんジャー：そうですね。そこでふれあいをー。

西川：どういうことをしていらっしゃる？

おろすんジャー：おろすんまつりと言いましてですね、毎月最終日曜日、方南町でイベントを開催しています。お祭りっていうほどの規模のものではないんですけど、もともと私の職の一つで農業もやっていて、石川県の方で米を作ったりとか。子どもの食事とかにすごく興味があって、ちょうど子ども食堂というのが6~7年前ですかね、都内ですごく流行ってしまして、子ども食堂をまずやってみようと思いました。農薬を使わないお米を作らせていただいていたんですけど、そのお米を使ったイベントをまず始めにやっていたんですね。で、あとはまあ季節ごとのイベントですよ、餅つきとか、流しそうめんとか。そういう活動を定期的にやっていたのです。私の活動要素が食事活動、体験活動、あとは防災。遊びながらやるっていう防災・食・学ぶ活動3本があるイベントを今、毎月最終日曜日に行っています。ここに参加してくださっている方も、お手伝いで来てくださっている方もいて、皆さんで作るお祭りですね。

新井：それまでは少し変わった人がいるなっていう感じで、私も商店街の立場で見えていたのですが、5~6年前からそういうことをやっていて。2年くらい前から、1年前くらいかな、正式に商店街で非公認キャラクターになりました。

西川：正式に非公認って！（会場：笑い）

新井：商店街公認というのは一人、“みなみちゃん”というキャラクターがいるのです。みなみちゃん以外では無理なんで、非公認ということで公認してもらっている（会場：笑い）。ですから商店街でいろんなイベントをやってもらっています。

方南町銀座商店街の願いである「若い人に集まってもらえる商店街」という流れで運営しています。私が方南町に来たのが学生時代で、今から40年前くらい、先程話したように二代目です。嫌々商売をやっていた感じもするのですけれども、その頃、20年間くらいはただ商売をやっているだけでした。面白い街だな、焼き鳥もうまいし酒飲むのも便利だな、ぐらいなものだった。それがいい歳になって40代くらいになってきて、商店街の理事になることになった。商店街側から街の様子を見ると、若い人っていうよりも本当は年配の方がいないとダメなんですよ、この街っていうのは。だけど若い人が集まれるような街じゃないと

やっぱり年配の人もいなくなっちゃう。

私たちの発想だと、イベントをやるっていうと“捨て看を作りましょう”、“ポスターを作りましょう”だったんだけど、若い人が入ってきて、“そういうの古いよね”、“こういうのあるよ”と。SNSとか何々とかそういうのを使いだしてPRしてもらったら、“捨て看やらなくても人集まるじゃない”、“ポスターやらなくても集まるじゃない”、そういう意味で言うと、もちろん力になるのは年配の方なんだけれども若い人が集ってくれるようなおもしろい街をつくらないとそれは継続していけないな、っていうことね。やっぱり今日の議題として、若い人とかが集まれるような街にするのが目標だけど、おろすんジャーさんがイメージにピッタリなんですよ。ですからもっともっとヒーローが出て欲しいんですけど、そんな一朝一夕でできるものではない。若い人たちに、ここで暮らしたいと思ってもらえることが願いですけど、目的としては、若い人たちが10年20年後に利用したいファシリティーのある街にしてほしいというリクエストに応えられるようなことをしたいなっていうのが、私達の考えです。

西川：喋るの苦手とおっしゃっていたのに、めちゃめちゃ喋るじゃないですか（笑い）。

新井：大分前から考えていたんです。

西川：質問はありますか？

参加者：ベビーカーおろすんジャーさんってお一人なんですか、それとも仲間がほかにいらっしゃるんでしょうか。

おろすんジャー：皆さん仲間なんですけど、ベビーカーを降ろす、ということだけっていうと一人でやってきました。今も一人でやっています。でも子ども達が夏休みに手伝ってくださったりとか、大学生が地域の課題とかで一ヶ月おろすんジャーをやるっていうのがこの何年かであったりしました。方南町に住んでいる外国人の方が面白がって『俺もやるわ』みたいなことで服を貸したら、そのまま無くなったみたいな。（会場：えーっ！）

西川：じゃあ弟子入りしようと思えばできるんですか？

おろすんジャー：はい、でも逆に僕が弟子になる可能性もあります。今方南小の3年生が毎月お祭りに来てくれて、自分をおろすんジャー2号だと言ってくれ

る。そういう子もいます。

西川：それは嬉しいですね。

おろすんジャー：子どもの体験活動を大切にしたいと思っていて、商店街のお花屋さんとか本屋さんとかでお仕事を体験してもらっています。「こども放送局」という活動は、カメラも、レポーターも子どもがやって方南町にあるお店を紹介するという動画制作体験なんですけど、その報酬としてお祭りで使える「変ドル」をゲットしてかき氷食べたりとかしている。毎月最終日曜日の方南町のイベントはこういうお祭りになっています。

西川：この動画は商店街で作っているの？

おろすんジャー：これはイベントの活動です。「こども放送局」って勝手に作って、編集だけ、勝手にちょん切ったりしています。

新井：今年はコロナで全然できなかったんですけど、方南銀座商店街でもおろすんまつりと一緒に毎月日曜祭りをやっています。方南銀座商店街はだんだんにぎやかに、良くなってきていますが、とは言ってもコロナ騒ぎで今また悪くなってきている。どこの商店街でも同じでしょうけど、お父さん・お母さん・兄弟でやっている個人営業のお店が多くて、どうしても日曜日は休みになっちゃうんです。土曜日まではすごい盛り上がるんだけど、日曜日になるとパタッと閉店になっちゃうところも多い。

そこで、日曜日にお休みの個店を商店街で借りて、その店の前で、この街にいる人でもいいし、いない人でもいいから「そこで商売していいですよ」というのをやっている。もちろん場所代をお店の方にお支払いするんですけども、日曜祭りっていうのを2年間くらいやっているんですね。

今年は1年全然できないのですけれども、また来年から復活して、月の1番最後の日曜日とかにおろすんまつりと一緒にやっていきたいと思っています。おろすんまつりがいないと子ども達が集まってくれない。

西川：おろすんまつりは商店街のイベントと同時に同じところでやるんですか？

新井：非公認なんですけど、ちゃんと借りてやっています。場所代払って。やっぱり子どもさんが来ると、お父さんお母さんも一緒に来るんですね。いい傾向ですけど、今年一年は悲しかったですね。

西川：商店街の話ももう少しお願いします。商店街の紹介とか今後こうしていきたいとか。

新井：私が商店街の理事、商店街の運営を始める時は一番若手だったのです。あの頃は若い商店街だねって言われたのですが 20 年 30 年経っちゃくと、一般的な商店街と一緒になっちゃった。商売はしてないけどお手伝いしたいよ、っていう人は私達、いつでもウェルカムです。いろんなところから来てくれて、「商売やってないけど、こんなことしたらいいんじゃない?」、「あんなことをしたらいいんじゃない?」、っていう提案をしてもらって、私達も「無茶ぶりで全然オツケーですよ」って言って、無理してでもやってもらっているのです。そういう若い力がないと絶対商店街って回らないと思うのですね。私達おじさんだけだったら、さっきのイベントじゃないけれど、ポスター作って捨て看立ててって話だったんですけど、今そんな時代じゃなくなっちゃったので、若い力・人にどんどんやってもらうようにしています。

西川：商店街のマップって商店街 HP に載っていますか？

新井：載っています。商店街ホームページ自体を、商店街じゃない若い人にやってもらっています。

西川：商店街の宣伝をお願いします。

新井：商店街区は結構広くて、今 150 店舗ぐらい商店街に加盟して入っているんですけど、潜在的にはその倍ぐらい、300 店ぐらいお店はあります。商店街に入ってくれるって言うお店は半分ぐらいですね。これはまだ決定してないのですが、例の Go To 商店街という、国の商店街振興施策に応募して、認められた場合の企画も考えています。

昨日も方南小学校で校長先生にお会いしたのですが、地元の学校であるとか、NPO であるとか、消防団、町会等、そういう地元団体が全部載っている小冊子を作りたいなっていう検討をしています。それが通るかどうかもまだ決定してないのですが、今、商店街で考えています。制作するのはほとんどが若い人の力ですね。正直言って、メールの使い方程度は知っていてもそれ以上のものは作れません。今の若い人に任せるとほとんど出来ちゃうんですね。Gmail でアンケートとかもできちゃう。そういう、今の若い人が集まれるような街にしたいということです。ただ、若い人達が本当に力になるかっていうとそれは僕たち年

寄りの在り方、使い方だと思うんです。使い方っていう言い方は変ですね。やっ  
てもらえるような、そういう器ができるかどうかっていうのは私達のせいだ  
と思うので、どんどん若い人が来て、ダメだったら行っちゃうんだけど、定着して  
くれる人もあるんじゃないかなあ、ということで。そういう商店街、お店の仕掛  
けをしています。

西川：いろんなイベントをやっているのもそういうことを含めて？

新井：商店街の恒例イベントは、年末の歳末市であるとか、お中元セールとか、  
そういうのしか発想がないんです、私達には。だけど今は『こういうのやったら  
どうだ』っていう人がいっぱい出てきたので、『まあやってくださいよ』と。丸  
投げしちゃうわけじゃないですけど、私達は机を運ぶのだとかそういう裏方は  
やりますけど、企画やったりとか、運営したりするのは、おろすんジャーさんみ  
たいな若い人がやっています。実はそんなに若くないんですけど（会場：笑い）。  
どんどんやってくれているので、そういう流れができればいいかなって考えて  
います。40代で商店街・理事に入ったって言ったんですけど、その時の仲間  
はみんな同じ歳になっちゃって、その頃若いと思ったのはそんな感じなので、次  
をゲットしてないと、10年後20年後は商店街がなくなっちゃうっていう危機  
感がいつもあるんですね。

別に商店街がなくてもいいっていう人もいるんですけど、僕はまたちょっと違  
うような気がするのです。商店街はスーパーとコンビニがあればいいっていう  
人もいるけど、そうではないと僕は信じています。泥臭いけど商店街を維持して  
いきたい。

西川：それはなんで商店街なんですか？なんで残したい？

新井：なんだか面白いじゃないですか、そういうの。嫌いな人もいますよ。お店  
に入っても話もしたくない、必要なものだけ買いたいっていう人もいます。そう  
じゃなくて、やっぱり僕たちの歳になると、つまらないことでもちょっと一言会  
話して、ただ帰る。そんなに買い物はしていないんだけど、「どうですか、この  
間のなんとかは」といった会話をしたり、そういう繋がりが欲しいんですね。商  
店側も欲しいし、お客さん側も欲しい。便利なのはスーパー行けば全部上から下  
くらいは揃いますが、それとまた違うところ、ちょっと泥臭いところで、やっ  
ぱり商店街は必要だな、と思いますね。まあそういう風に思わないと続けられな  
いところもあるので。

先ほど、「自分にとってのヒーローは誰ですか」とって質問した時に、「両親がヒー  
ロー」だって言った方がいました。

私も 2 代目で、両親が作った土台の上に乗っているだけですが、やっぱり私から見て両親はヒーローなんですね。商店街も、先輩達が築いたものを引き継ぐことが僕達の仕事。どんどん若い人たちにバトンタッチできるように準備したいなって、みんな思っています。商店街が必要かって言われると、反応する人もいっぱいいると思うのですが、私は必要だと思っています。

西川：ありがとうございます。

司会者：質問のある方いらっしゃいますか？

私から質問なんですけど、お二人はいつも明るく街を盛り上げてくださっているんですけども、明るい気持ちを保つ秘訣とか、コロナ禍でもいつもニコニコしていらっしゃるの、何か秘訣があれば教えていただきたいと思います。

新井：いつもニコニコしているわけじゃないですけど（会場：笑い）、ニコニコしてやった方が、どうせやらなきゃいけないならその方がいいかな。ま、こういう顔なんで（会場：笑い）。

おろすんジャー：僕もニコニコしています、伝わってますか？

中央通り、銀座商店街もそうですけど、中央通りを歩いて皆さんに挨拶するんですけど、普通のスーパーやチェーンなんかでは味わえないような、『お！おろすん頑張れよ』みたいな会話をすごくできるんですよね。毎日通勤の時に通ると、中央通りから方南通りに入った瞬間、スッとスイッチが入るといえるか、それまでは笑ってないと思いますが、方南町に入った瞬間、ニコッといえるか元気になるといえるか、そういう瞬間があるんですよね。ま、なんか元気な街ですよね。なのでニコニコになっているんだと思います。家ではすごく暗いです（笑い）。

新井：私も暗いです（会場：笑い）。

西川：外向きの顔（会場：笑い）。

新井：外面がいい（会場：笑い）。

西川：今商店街で困っていることは何ですか？特にないけどもっと楽しくしたいとか？

新井：いっぱいあるんですけど、先ほど言ったように、商売してない人、若い人にもどんどん入ってきてもらって、いろんな意見を聞きたいですね。力になっ

て欲しい、本当にそれだけです。もちろん商売をやっている人は2代目・3代目と続いて、どんどん商店街行事に関わってきている。僕達は先ほど言ったように親の土台の上に乗っているものですから、いろんなことができるんで、今は手を回せていますけど、後継者がどんどんいなくなっちゃうと、商店街は本当に無くなっちゃうのです。

商売してなくても若い人でも、サラリーマンでもいいから、ダメ出しでもいいですね。“いいじゃない”っていう人だけじゃなくて“おかしいんじゃない、あんなことやって”っていう意見も必要ですよ。そういう提案をしてもらって、“えー、そんなところが悪かったのかな”って思うこといっぱいあるんですよ。“あんなことやったんだけど、ああいう事言う人もいるんだね”、“そんなこと言う人いるんだね”って、商店街が初めてわかるっていうことがいっぱいあるんですよ。

人間っていうのはいろんな見方を持つから当然だと思うんですけど、気が付きが少ないのが商店主なんです、社長ですから。その辺はどんどん若い人に入ってきてもらう。若い人が商店街活動に入ってくるには、それらしい新しい若い人がちゃんと入ってくるようなシステムを作らなきゃいけない。

方南町っていうのは、最近地価や家賃が上がっちゃって、住みづらいところがあるんですよ。だけど本当はそんな家賃が高いようなところじゃないんですよ。本当に庶民的な街ですけど、大人の事情で上がっちゃうのです。夜遅くまで飲食店の煙が立っているような街が僕は好きですけど。そういう街にしてみたいし、若い新しい人にいろいろ言ってほしいですね。

司会者：商店の方はお店を運営するので精一杯で新しいアイデアとかを考えたことが苦手な方も多いんですけど、方南銀座商店街は外からの意見を結構取り入れて、会長さんがすごく柔らかい、「イベントをどんどん何でもやりましょう」という方なのです。アイデアとか“手伝いたいよ”という方とかいらしたら、新井さんでも、おろすんジャーさんでもいいんですけどお声掛けいただければ幸いです。よろしく願いいたします。

新井：方南町の方じゃなくても、今日の参加者にも、違うところで頑張っている方がいらっしやいます。

参加者：方南町で色々勉強させてもらって、別のところで頑張っています。

西川：別の所ってどこですか？

参加者：杉並、同じ和泉なんですけど、一丁目の沖繩タウンっていう商店街で私も活動しています。元々は方南町駅のすぐ近くの和泉 4 丁目に住んでいて、方南町地域は素敵な街だなあというのを感じて、ご縁があってお手伝いを色々させていただいていた。それがすごく楽しかったし、こうやってイベントをやったらいいんだというのをたくさん学ばせていただいたので、今に繋がっているなあ、って感謝しています。

新井：お互い褒めあって（会場：笑い）。

西川：褒めあって・・・ありがとうございました。お話いいですか？ベビーカーの正しい降ろし方を教えてください。

おろすんジャー：じっくり教えたいです。時間かかりますけど。

西川：別の機会に、実習としてじっくり教えてください。じゃあ、一旦ここで終わりでいいですかね？最後に、おろすんジャーさんから、おろすんジャーになってよかったなあ、ていう、あれが一番よかったなあと思うエピソードをお願いします。

おろすんジャー：エピソード・・・。日々よかったことだらけですけど、一つ言うなら、「警察に通報される・無視される・何をやっているのかと不審がられる」という 3 つのリスクがある中で、黒板を掲げて 3 日目ぐらいに黒板を見たお母さんが“ちょっと怖いけど頼んでみようかな”となって、ベビーカーを降ろさせてもらったんです。その方がボロボロ泣きながら“ほんとありがとね”みたいな感じで、その方もいろいろ断られたりとか、酷いこと、ベビーカー蹴られたりとか、そういうつらいこともあったんだけど、こういう親切な人もいるんだなあって、感激していただいた。その方がまた、何か月か後に来てくれた時に、『あなたが降ろしてくれるから、方南町駅なら安心して乗車できるよ』とみんなに伝えているとのこと。サラリーマンの人とかが、『俺がおろすんジャーやるよ』、みたいなことを言ってくれて、役に立ってないかもしれないと思っていたんですけど、もしかしたらいいことができたかなあ、って。嬉しかったですね。

西川：ありがとうございます。「俺もおろすんジャーやるよ」って言ってくださる人がいたというエピソードでした。

では、会長さんも最近“商店街の会長やってよかったな”っていうエピソードがあれば、一つ。

新井：先ほど言ったように、どんどん変わっていくのを見られるっていうのが一番楽しい。街が少しでも良くなっていくのが見られるっていうのは、私の力じゃないけどすごく楽しみだし、いろんなお客様に来てもらっているからなんでしょうけど、僕達が変わる側としてどんどん変わっていける方南町は、すごく嬉しいですね。これがやりがいだと思います。

西川：変わっていくのが嬉しい。

新井：はい。ただ良くも悪くもですね。いいばかりじゃなくて、違う方向に進むような気もしますけど、それこそあと10年、15年先を見ていないといけないと思います。私達は、次の代にそれを託したいんですけど、ちゃんとした形でバトンタッチしないと、バトンを渡された人も嫌だと思うんだよね。

西川：ちゃんとした形っていうのがあるんですか？

新井：定型はないと思います。定型外で、いろんな利害関係もありますけど、先ほど言ったように、商店街っていうのは絶対必要だと思っています。もちろん、無人化して、商品を、最近の中国・韓国みたいにポンと有人レジを通さずに自動で会計できるのはすごく便利なんですけど、自動車の無人化も、手放して運転できるなら運転しなくていいと思ってる、そういうちょっと古い人間です。商店街は絶対、長嶋じゃないけど永遠に不滅です。

西川：締めの一言が昭和ですね。ありがとうございます。皆さん、明日からのお買い物は商店街でお願いします。

新井：よろしくお願いします。

西川：質問とかいいですか？

黙っていても買い物できる時代にどんどんなって、私達の暮らして基本的には人と話さなくても物が買える暮らしにどんどん変わってきた半世紀だったんですよね。するとお話ししながら物を買うっていうこと自体が若い人達の中でも機会としてなくなっていますよね。

地元の団地で民生委員をやったことがあるのですがけれど、おじいちゃんも、おばあちゃんも、とにかく喋りたい。ちょっとスイッチでも入れようものなら、例えば、子どもの時、何していましたか？とか、入れようものなら2時間ぐらい延々としゃべる。だけどやっぱり用事がないと、誰かに会いに行く事って出来ないん

ですよ。だから家にいると、“ピンポン”としてくれた民生委員さんにわーって喋るってことになる。

例えば一日一回でも商店街に買い物に出かける、出かけて買うついでにちょっと話をするっていうことができる、それでかなり解消してくる話ですよ。わざわざ「お話聞きますよ」って民生委員が行くよりもよっぽどその方がいい。売る方は一応お話に付き合うと買ってもらえるっていうのがいい。話す方は、話をしながら買っていき、「最近来なかったけどどうした」と言ってもらえる、っていうプラスの面がいっぱいあって、生活の仕方っていうかスタイルの問題として、私達の街づくりを考えていけないといけない。その意味で、商店街ってもっともっと、本当はこれから意味が増してくるもののはずなのかなあと思いながらお話を真面目にまとめてみたんですけど、こんな感じでいいですか？（会場：拍手）

あとね、知らない人が声かけてくれるってこと自体がすごく嬉しい時代だと思います。知らない人が『いいですよ』『降ろしますよ』って一言をしてくれるのが稀有な事になっているので。僕らが路上で遊んでいたりすると知らない人に声かけられるんですけど、『やっていきます？』っていうと最初、お母さん達がみんなびっくりするんです。でも、その後『いいですか』って話になって、『本当に久しぶりに知らない人と一緒に遊びました』ってなる。すごく面白いですね。

さて、後半は皆さんの方でお話ししていただきます。さっき新井さんからお話をいただいたので、このお題でお話ししてください。「もっと若者に街に来て欲しいけど、どうしたらいいですかね」って。

新井：具体的に若い人に方南町に来てもらいたいって先ほど言いました。若い人にどんどん住んでもらって、若い人、若い家族が方南町に引っ越す。それに付随して Go To 商店街、本当に来て欲しいんですけど、そういう街じゃないと先ほど言ったように次の世代に繋がっていかないっていうのが私の考えの根底にある。

相談としては、若者がもっと来てくれる街にしたいですけど、どうしたらいいですかねってことです。いつでも頭にあります。おろすんジャーさんどうします？

おろすんジャー：どうしましょうねえ。さっき若くないって言われていましたけどね（会場：笑い）。

新井：言ったっけ？（会場：笑い）。

おろすんジャー：「若者にもっと街に来て欲しい」という、若者ってどれくらいの若者なんですか？20代？学生さん？

日曜日になると若者含め、親年代の人たちが方南銀座から出て行くんですね。方南町駅周辺に遊ぶところがないということをよく言われる。遊ぶところを作るっていうのはなかなか難しいんですけども、日曜日にイベントとかやらせてもらって、いつも日曜日にはイベントとか何かやっていたら、もしかしたら来てくれるのかなあ、という思いもあります。皆さんから企画とかあればいただきたいです。

西川：ありがとうございました。ということで後半は、皆さんに相談っていうことで。このテーマで、さっき作ったグループでひたすらアイデアを出す。無理やりでもオッケーです。イベントならイベントの種類もあるでしょうし、イベントじゃなくても、何でもいいのです。商店街のイベントについて、これからこんなことしてみたらどうでしょう、みたいなことを、皆さんでアイデアを出し合いたいと思います。

#### 4. グループトーク その2

西川：アイデアをいっぱい出す練習をします。広告代理店の方がこの中にいらっしやったらよくご存知かと思えますけど、企画をいっぱい出して一個選ぶんです。量をいっぱい出すと面白い物が一個出てくる可能性がある。もうないなって思ったら、ポロッと出てきたり、次の一言が企画になったりする。これは会社でいっぱいあることなのです。新しい商品のネーミングを考えますっていうときは、もう100個どころか何百個も出して、そのうちのこれだよなってなる。ひらがながいいか、カタカナがいいか、とかね、そういうのも全部含めてみんな違うアイデアを出していくって感じで、たくさん出したチームが優勝です。

まずは練習で、お題を「秋の味覚といえば」、にしましょう。箇条書きで上からどんどん書いてってください。周りの人はとにかく言っていく。一人一人が一生懸命書いていく。いいですか？それだけです。制限時間2分ぐらいで。

一番多く出せたところは、おろすんジャーから「変ドル」がもらえるかも知れない。

それぞれのグループで：栗、松茸、柿、きのこ、松茸ご飯、もみじ、もみじは食べ物じゃない！もみじの天ぷら、さくらんぼは違いますよね、ザクロ、キャベツ？かぼちゃ？さつまいも、ぶどう、落花生、さんま、土瓶蒸し、栗ご飯、栗、・・・etc・・・。

西川：じゃあ、何個あったかを聞いてみようかな。こっちから聞いてみようかな。何個ありました？

参加者：20 個です。

各グループ：20 個、19 個、18 個、15 個、26 個！（拍手）

西川：なんかここで、栗と栗ご飯は違うとか言っていましたね（会場：笑い）。さっき言った通り、これは正解です。栗と栗ご飯は違う。違うものなんだっていう考え方です。カタカナで言うかひらがなで言うか、とか、漢字を一部変えるか、とかで印象がガラッと変わったり、方法はいっぱいあるんですよ。

本題は、「若者にもっと街に来てほしいけどどうしたらいいですか？」です。アイデアに優劣をつけないので、何でもいいから書いてください。

目標は、児童用の机の上に置いた A3 用紙を、アイデアを書いた付箋で全部埋めることです。

1 人 1 個か 2 個出してもらった方が面白いので、最初に 2 分取るので、各自 3 つ書いてみてください。

それを出した後、グループの皆で一緒に考えます。付箋を 1 人 3 枚持って、1 アイデアで 1 枚使ってください。

（付箋を見て）

「ベビーカーおろすんジャー応援ソング」って、あるんですか。（音楽を流す♪～）

おろすんジャー：街の人がつくってくれました！（会場：おーっ！）

（わいわい賑やかに案を出し合う）

西川：せっかくなので、よその商店街を覗きに行きましょう。一人残っていただいて、あとの人は全員違うグループのところに行く。

一人残った方は、来た人に“これで盛り上がったんです”って説明する。残りの人はみんな、散る。

（シャッフルタイム）

西川：多分ちゃんとしたアイデアとかいっぱい出ていると思うんですけど、“これバカだね”っていうのを一個選んでください。“それはないでしょう”っていう、あり得なさそうなやつを選ぶ。では一個選んで、紹介してくれる人も選んでください。

ありえないアイデア募集・・・これをもし方南銀座商店街で開催したら、めちゃめちゃ人気が出るか、商店街潰れるか、みたいなアイデアを紹介してください。待っています。

参加者：理事長がイケメンの人を毎月呼んでくる、っていうのが出ました（会場：笑い）。

参加者：こちらのテーブルは「ゆるキャラを大集合させる」、ここから発信するっていうのものです。

参加者：杉並区、中野区もそうなんですけど、アニメ制作会社がすごくあるんでアニメソングフェスみたいなものを広場でやると若い人がいっぱい来る。「鬼滅の刃」を制作した会社がこの杉並区にあるということなので（会場：えーっ！）、すごく流行るんじゃないかなっていう話になりました。

新井：このチームは常識人なのであんまり面白い案が出なかったんですけど、強いてこれはちょっと、っていうのが、アイドルを呼んだイベントです。年代によって違いますんでね。合うかどうか分からないんですけど、まあそれぐらいしか出てないですね（会場：笑い）。常識人なんで。

西川：はい、ありがとうございます。何々フェスとかいろいろありますよね。黄色い服しか着て来てはいけない日とか。

参加者：ここの班では、仮想体験とか、みんな子どもになったりとか、そういう意見があったので、全部まとめて「制服祭り」っていうのを考えました。リアルな今現在のJKから、過去何十年前のJKまでみんなで制服を着て集まる、っていう。方南町だったらできる気がするなと思います。（会場：拍手）。

西川：素晴らしい！制服縛り。すごいですね。消防士は消防服着てくるっていうのもいいいの？

参加者：学生服がいいかなっていうイメージです。

西川：ありがとうございます。じゃあ、ベビーカーおろすんジャーさん。

おろすんジャー：ここの班は「皆が竹をくわえて歩く」です。字を見る限り先生の字なんですよ（会場：笑い）。よかったらどういうイベントなのかを説明してください。

西川：鬼滅ネタですね。鬼滅系ですね。

先生：小学校で今「鬼滅の刃」が非常に人気がありまして。禰豆子（ねずこ）というキャラクターがいつも竹をくわえているんですね。放課後それを自分で手作りしてくわえている子がいっぱいいるんです（会場：そうなんだ！爆笑）。ただこれ、実際に開催するとなったら大変だと思います。

西川：ありがとうございます。すごい。面白いですね。「鬼滅の刃」に縁もゆかりもないのにそういうイベント。それがいいです。

はい、ありがとうございました。元の座席に戻ってください。

（グループ別から座学形式の座席に戻る。）

西川：そんなところで今回はこれで終了します。要は、たくさんの人で考えた方がいいし、アホなこといっぱい出しているうちに面白い物がポロッとできるという感じなんです。

商店街をもっと盛り上げたいなとか、面白くなってほしいな、この街に住んでよかったな、と思う人が増えて欲しい。そう思う人がうろうろしながらいろんなものを見て考えていると、あ、これは使える、っていうアイデアが頭に飛び込んでくる。でも見てないと飛び込んでこないの、例えば僕だったら、子どもの遊び場や大きな落ち葉プールを作る際に、なぜか秋になると、ずーっと落ち葉を見て、どこに木があるかとか見ていたりするんです。こういう視点で見ればアイデアが頭に飛び込んでくるものなのです。今度、商店街だったらどんな面白いことができるかな、あの商店街の理事長さんだったらきっと変なことを言っても“うん”と言ってくれるに違いないっていうのが、皆さん今日はよくお分かりになっていただいたと思います。なので、その視点で一緒に考えてもらって、ネタを拾ってきてもらって、“こんなのどうでしょうね”ってまたお話ししながらやっているとちょっと面白くなっていくのではないかと思っています。だから理事長さんがずっと“新しいアイデアを、苦情もオッケー、なんでもオッケーですよ”って言ってくださっているところが多分、次の大きな魅力を生んでいくんだろな。お二人どうもありがとうございました。

おろすんジャー、新井：ありがとうございました。（会場から拍手）

西川：皆さんお疲れ様でした。ありがとうございました。

司会：最後に、先程お配りした紙に今日の感想を書いていただいて、グループ内で発表していただきます。今日の一言でもいいですし、書ける方は川柳を書いてください。その川柳は最後、合同発表会の時にカルタとして使わせていただきます。無理に五・七・五で書かなくても大丈夫です。字余りでもオッケーです。おろすんジャーさんにも書いてくださるようお願いします。

（発表タイム）

西川：ありがとうございました。じゃあ終わりってということで。事務局から何かありますか？（事務局：無いです。）皆さん、ありがとうございました。（会場：拍手）

司会：それでは時間が延びてしまいましたが、今日の講座、これで終わらせていただきます。ご参加いただきましてありがとうございました。お疲れ様でした。